

来年3月、大阪アジア映画祭2011を開催します。「大阪発。日本全国、そしてアジアへ」をテーマに、日本初上映となるアジア映画最新作を多数上映するアジア映画の祭典。今回からコンペ部門を新設し、さらにスケールアップ。新しい大阪アジア映画祭2011にご期待ください。

この映画祭に先立ち、プレイベントを開催します。過去2回の映画祭で話題になり、再上映のご要望が多かったアジア映画や、インドの巨匠グル・ダット監督の2作品、さらに大阪アジア映画祭2010のクロージング作品『東京タクシー』のキム・テシク監督の特集企画を行います。映画祭のワクワク感を増幅すること間違いなし。ご来場をお待ちしております。



大阪アジア映画祭2010歓迎イベントより

特集イベント **グル・ダットとキム・テシク**

**12月11日(土)・12日(日)**

## 12月11日(土) **グル・ダット監督特集** INDIA

1950年代、インド映画の黄金時代を疾走し、監督のほか出演・製作もこなしてスターの座に君臨しながら、1964年に39歳の若さで自ら命を絶ったインド映画伝説の名匠グル・ダット。衝撃のデビュー作『賭け』(1951年)、運命の女神ともいべき名女優ワヒーダー・ラフマーンをヒロインに迎え、ユーモアとペシミズムが交差する最高傑作『渴き』(1957年)の2作品と、ミルクマン斉藤さんによるトークショーを開催します。

**賭け** BAAZI 1951年/インド/モノクロ/137分/35mm 監督:グル・ダット

失業中の運転手マダンは、実は凄腕のギャンブラー。妹の治療費を稼ぐため悪の道に踏み込むが、そこには思いがけない罠が待ち受けていた…。暗黒街に甘い歌声が響く、ダットの記念すべき処女作。ノワール映画の体裁をとりつつ、階層社会の矛盾を暴いた作品。



**渴き** PYAASA 1957年/インド/モノクロ/145分/35mm 監督:グル・ダット/出演:グル・ダット、ワヒーダー・ラフマーン

売れない詩人ヴィジヤイの詩を気に入ってくれるのは娼婦のグループだけ。自暴自棄になったヴィジヤイは、ふとしたことから鉄道事故に巻き込まれ、発売された遺稿詩集はベストセラーになるが…。グル・ダットの最高傑作。「グル・ダットは天才であり、『渴き』は傑作である。この歌謡映画を見て背筋に震えが走らなければ、あなたは映画とは無縁の存在だ。涙ひとつ流さず全篇を見終えることのできる人は、抒情の何たるかを知らない」(蓮實重彦)

**グル・ダット監督**  
Guru Dutt

1925年7月9日バンガロール生まれ。カルカッタで教育を受け、ウダイ・シャンカルの舞踊学校で2年間学ぶ。その後ブネーのプラバート映画社に行き、1946年振付け師として映画界入り。俳優及び助監督を経て1951年『賭け』で監督デビュー。以後俳優兼監督兼プロデューサーとして数々の名作を発表。1953年当時人気があったプレイバック・シンガー、ギター・ラーイと結婚。1964年自ら命を絶つ。

## 12月12日(日) **キム・テシク監督特集** KOREA

キム・テシク監督  
トークショー開催

今年3月、大阪アジア映画祭2010のクロージング作品は『東京タクシー』だった。国境をタクシーで軽々と越える主人公たち。しかし、日本と韓国という隣人でありながら話す言葉は片言の英語…!? ユーモアたっぷりに描きながら友好と苦難の歴史を併せ持つ日韓関係を鮮やかに切り取るキム・テシク監督の手腕の確かさ! そんなキム監督の次回作は、韓国からタクシーで大阪にやってくる奇想天外ロード・ムービー。この『ウエルカム・タクシー』の企画を大いに応援したい。キム監督の前作『妻の愛人に会う』と彼が助監督を務めた本格的な日韓合作映画『家族シネマ』、それに『東京タクシー』を上映しながら、キム監督に新作の思いなどを語っていただきます(聞き手:暉峻創三(大阪アジア映画祭プログラミング・ディレクター))。



**東京タクシー ディレクターズ・カット版** Tokyo Taxi 提供:MUSIC ON! TV SPEEDSTAR RECORDS

2009年/韓国・日本/カラー/76分/デジタル 監督:キム・テシク 出演:山田将司、山崎一、ユ・ハナ  
売れないロックバンドの青年が、韓国で開催されるロックフェスの出演依頼を受ける。しかし、彼は飛行機恐怖症。困り果てた彼は、なんとタクシーでソウルに向かう。中年のタクシー運転手を巻き込んで、東京、釜山、ソウルと、国境を越えてジャパン・タクシーが疾走する!



**妻の愛人に会う** Driving with My Wife's Lover 協力:韓国映画振興委員会、イメージフォーラム

2006年/韓国/カラー/92分 監督:キム・テシク 出演:パク・クアンジョン、チョン・ボソク、チョ・ウンジ  
妻の不倫を知った主人公が、不倫相手が運転するタクシーに乗り込み、奇妙な珍道中を繰り広げるシュール&シニカルな傑作ブラック・コメディ。先の読めない展開と、コミカルなシーンで楽しませるとともに、人生に対する深い洞察がちりばめられたキム監督のデビュー作。



**家族シネマ** Kazoku Cinema 1998年/韓国・日本/113分 監督:パク・チョルス 原作:柳美里 助監督:キム・テシク 出演:柳愛里、梁石日、伊佐山ひろ子

芥川賞を受賞した柳美里の同名小説を映画化。「家族」がテーマの映画に出演することになった一家。20年ぶりに一堂に会した親子は実は様々な問題を抱えていた……。現代社会に生きる家族の姿を時に冷徹に、時に暖かく見つめる異色作。日本文化解禁にあたり、韓国人スタッフによる「日本語の映画」第1作として製作され、大きな話題となった。

**キム・テシク監督**  
Kim Tai-sik

1959年ソウル生まれ。80年ソウル芸術大学映画学科在学中に日本へ留学。日本映画学校で学んだ後、86年よりTVやCFのディレクターとして日本、オーストラリア、香港でキャリアを積む。パク・チョルス監督『家族シネマ』の助監督を務めた事をきっかけに映画界入り。初の長編監督作『妻の愛人に会う』が内外の映画祭で高い評価を受ける。続く『東京タクシー』とタクシーを舞台にした作品を連発する監督の次回作は、プサンから大阪にタクシーでやってくる『ウエルカム・タクシー』! 来年の撮影を予定している。

# Osaka Asian Film Festival 2011

大阪アジア映画祭2011 2011年3月開催!!

www.oaff.jp